

県建設業協会

第3回「夏休み就業体験」
(平成28年度)

若年者入職促進に期待

奈良県建設業協会(松本良三会長)は去る22日、第3回「平成28年度夏休み就業体験」を近畿建設技能研修協会の三田建設技能研修センター(兵庫県三田市)で実施した。

当日は奈良県立奈良朱雀高等学校から建築工学科1年生の生徒4名、2年生の生徒4名と引率教員の松山義広氏、奈良県立御所実業



増井教諭



松山教諭



吉岡専務理事

高等学校から都市工学科1年生の生徒3名と引率教員の増井久氏、同協会から吉岡専務理事、平松友栄総務調整課課長補佐の総勢15名が参加した。近鉄西大寺駅南口に参加者全員が集合しバスで現地へ移動。バスの中で吉岡専務理事は「本日、奈良朱雀高校、御所実業高校の11名の生徒の皆様が就業体験に参加頂き、本年はそのうち2名の女生徒の方々にも参加頂いた」と感謝を述べ、「建設業界は若年者の入職が少なく高齢化が進み技術の伝承も難しくなってい

る。本日参加頂いた皆様には建設業の魅力を理解頂き、社会に出られる時には建設業界に興味を持って頂ければ幸いです」と挨拶した。

同センター実習場で、午前は建設機械の運転では生徒は2班に分かれ、車両系建設機械(解体用作業車)の操作と高所作業車の操作を体験。午後の型枠組立て実習では、まず壁型枠についての説明、その組立作業の順序や使用する道具の説明、作業のコツや道具類の使い方などのコツなどを熟練したセンターの指導員が解り易く説明した。その後の実習では生徒は3班に分かれて壁型枠前でそれぞれ記念撮影を行うなど達成感を味わったあと解

体し、資材や金具類の整理整頓なども体験。指導員の厳格的な指導で安全な運転操作

や作業工程を学習した。参加した松石明己さんは「高所作業でレバ操作が難しかった」、懸尾惟奈さんは「高所作業車は楽しかった」。今回参加した理由を澤田優樹君は「建設関係に進みたいから」、藤本琉星君は「おじいちゃんの日曜

女生徒が初参加

同協会が主催する「夏休み就業体験」は今回が3回目の試み。大工を手伝っていたから興味があった」など話した。建設業への若年者の入職促進のため、奈良県内の実業高校生を対象に、建設技能職種の実習体験を通して、建設業に対する理解の促進を目的としている。



型枠指導員(前列中央の2人)を囲んで記念撮影

高所作業車の指導



型枠組立ての実習



解体作業車の指導

